

## 東日本区理事通信



国際会長主題  
スローガン  
アジア太平洋地域会長主題  
スローガン  
東日本区理事主題  
スローガン  
強調月間 RBM、LT

「価値観、エクステンション、リーダーシップ」  
「命の川を信じよう」  
「変化をもたらそう」  
「奮い立たせよう」  
「変化をたのしもう！」  
「助け合い、分かち合い」

2021. 4. 1 発行 第10号



## 理事メッセージ

東日本区理事 板村 哲也（東京武蔵野多摩）

4月は日本では新たなスタートの時期で官庁、多くの企業、学校で新年度が始まります。気候は過ごしやすく、色とりどりの花が咲き、心がワクワクし、これから・・・やるぞ！と気合の入る節目でもあります。

またワイズは年度の四分の三が経過し、追い込みの時期です。これまでコロナ禍で何かと思うにまかせぬことはあり、それは今も続いています。皆で協力しながら困難を乗り越え活動を行ってきました。改めて皆さまのお働きに感謝致します。残すところ3ヶ月となりましたが、年初の計画とこれまでの9ヶ月を振り返り計画や目標の達成に追い込みをかけましょう。次期の区、部、クラブの役員の方々は新年度に向けて既に準備に忙しい日々を過ごされていることと思います。現・次期関係者間のコミュニケーションを良くして段取りよく円滑に新年度をスタート致しましょう。また各会員の皆様もそれぞれの立場でいっそうのお働きをされることを期待いたします。

さて今月10日（土）夜にリモートで第3回東日本区役員会（現・次期合同）を開催します。次年度の理事方針、事業計画、予算、人事の他東日本区の法人化や多くの重要事項が審議・決定されます。出席対象の皆さまには万障お繰り合わせの上ご出席ください。

第24回東日本区大会は6月12日（土）の午後ハイブリッドで開催致します。近々詳細をご案内できる予定ですが、取り急ぎ概略を別記しましたのでご参照ください（6頁参照）。因みに西日本区大会は6月5日～6日に京都でハイブリッドで開催される予定で、参加登録の受付中です（西日本区ホームページ参照）。また第29回アジア太平洋地域大会（2021年8月14日、台湾）はリモートで開催することが2月28日のアジア太平洋地域年央議会で決定されました。詳細は後日のご案内となります。

3月21日で東京都の緊急事態宣言が終了しました。これに伴い東日本区事務所および区が主催する、或いは区に関わる諸行事、会議等の対面での実施を再開しました。しかし新型コロナウイルスの感染のリバウンドや変異株の感染拡大が懸念されています。これからも気を緩めず状況を見ながら適宜の方法で諸活動を行いましょ。残りの3か月を全力で走りましょ。

国際会長ニュースの4月号（日本語版）が東日本区HPに掲載されています。是非御覧ください。

# 強調月間「RBM、LT」

## ★マラリア撃退！RBM 強調月間



### 国際・交流事業主任 米長晴信（甲府 21）

4月25日は世界マラリアデーです。ワイズメンズクラブ国際協会では、マラリア撲滅のための国際的枠組みに参加して撲滅に向けて取り組んでいます。

マラリアは蚊を媒介して感染する病気で、予防するのは極めて厄介です。コロナのように手洗いやマスクでは予防できないのです。2004年、特派員時代にインドネシア沖大地震・津波を取材した時のこと。マラリアが発症している地域でしたので、マラロンという予防・治療薬を持参して現地を取材していました。この薬は副作用が強く、予防的に飲むのは避け、発症の疑いがあったらすぐに摂取するように、との医師の指示がありました。肌が露出しているところは虫除けを塗るなど対策を講じていましたが、取材中40度近い熱が出てしまい、マラリア？との恐怖がよぎりました。現地にはすぐに診察できる医療機関がない（町全体が地震と津波で崩壊）状況でしたので、自衛隊の医療チームを訪れて診てもらいました。幸いマラリアではありませんでしたが、生きた心地はしませんでした。

日本にはマラリアがなくピンと来ませんが、熱帯の地域を中心に年間2億人を超える感染者と43万人の死亡者が推定されています。コロナに加えてこのような恐ろしい病気にさらされている人たちの事を頭に思い浮かべ、国際協会のRBM基金への協力などワイズメンとしてできる事をしてまいりましょう。

## ★今月の強調月間はLT（リーダーシップトレーニング）です



### LT 委員会委員長 山下 真（十勝）

「変えられるものを変える勇氣を、変えられないものを受け入れる冷静さを、そして両者を識別する知恵を与えたまえ」

アメリカの神学者 ラインホルド・ニーパーのこの祈りの言葉

を東日本区LT委員会では、年間テーマとしてきました。新型コロナウイルスの発生は、私たちに生活習慣やものの考え方、生き方に大きな変化をもたらしました。また、私たちの社会も好まざるを得なくともITやネットは社会基盤となっています。

常にリーダーは取り入れるべき変化を受け入れ、それに向けたトレーニングを継続していくことが求め

られています。リーダーは謙虚であり、人の話をよく聞き、変化に敏感で新たな挑戦を恐れず、メンバーの主体性を発揮させていく努力を怠らない。そんな神様や仏様みたいなものに私たちは造られていません。だから、一步でも自分が理想とするリーダーに近づくために不断の努力が求められているのだと思います。

LT委員会にも各クラブ・部の研修をサポートする役割が与えられています。東日本区が公式サイトに用意する「クラブ運営マニュアル」ほかの手引きを読み込んでいただくことを前提に、ここは国際協会にも力を貸してもらいましょう。各種のトレーニングキットがスライドショーとして用意されています。それぞれの目的や条件などによって補足等も必要だと思いますが、積極的にご利用ください。東日本区の公式WEBサイトの右メニューの中に「Document」というページがあります。そこを開いていただくと「LT Training Kit(LT・国際協会)」というページがあり、①クラブリーダーの務め②活発なメンバー③効果的なリーダーシップという国際協会制作の3本のパワーポイントの日本語版をご用意しています。3月13日にZoomで開催されたアジア太平洋地域のリーダーシップトレーニングでは、なかなか使える教材であることが実感できました。

自らの変化を引き起こすには自らが考え行動するしかありません。そのためにLT委員会では「ワールド・カフェ」という啓発プログラムの標準化を急いでいます。講習形式による一方的なトレーニングではなく、他人の声に耳を傾け、自らが発し、自らが考えるメソッドです。「答えはきっとあなたの中にこそあります」そして、私たちを変えてはならないもの、「ワイズらしさ」だったり、「〇〇クラブらしさ」だったりするのでしょう。

ワイズの草創期のリーダー、ポール・W・アレキサンダーは「なぜ私たちは、排他的であるべきなのか」という文章を遺しています。信教思想信条の垣根を越えて広く広かれたワイズメンズクラブの中で、一見、誤解されそうな「排他的」という言葉を軸としたこの一文はワイズの特異性、普遍性と誇りを指し示していると思います。ワイズが考えるべき「変えていくもの」「変えられないもの」は、リーダーだけでなくすべてのメンバーに与えられた永遠の宿題です。共に手をたずさえて答え探しの旅を続けましょう。

なお、「なぜ私たちは排他的であるべきか」は、上で述べた研修教材と同じく、東日本区ウェブサイトの以下から読むことができます。

<https://www.ys-east.or.jp/document/lt-training/>

## ★「3.11 献金」のご参加ありがとうございました

東日本大震災支援対策本部本部長  
板村哲也（東京武蔵野多摩）

東京都の緊急事態宣言が延長され「3.11記念礼拝と追悼の集い」の当日が宣言期間中となったためリモートで出席しました。

この行事に先立ち「3.11献金」の募集を行いましたところ、多くの有志の皆さまから暖かいお志が集まり、総額は80万円となりました（1部と11クラブ259,000円、個人30名541,000円）。個人の中には西日本区の方もいらっしゃいました。東日本区からの献金50万円と合わせ、これまで東日本大震災の復興支援活動を続けてきた仙台4クラブ（仙台・仙台青葉城・仙台広瀬川・石巻広域クラブ）の活動継続のために贈呈いたしました。

献金にご参加頂きました皆さまには有難うございました。

## ★2020—2021年度 次期会長・部役員研修会の報告

LT委・埼玉クラブ次期会長 浅羽俊一郎

本研修会は例年であれば同期の会長・部関係者・区役員が一堂に会して、2日間に渡って研修し、親睦を深める大切な機会のはずです。それが昨春世界を席巻した新型コロナウイルス感染症（コロナ禍）のため昨年3月予定していた研修会は中止。その後Zoomによるパソコンのスクリーン越し会議方式が徐々に定着し、クラブや委員会によっては開催可能になり、昨年10月末には次年度部長・事業主任研修会が開催されました。この時の教訓を下敷きにLT委員会は板村哲也現区理事、大久保知宏次期理事、役員たちと準備を進めました。そして緊急事態宣言下、3月6日に次期会長・部役員研修会を無事開催することができました。

当日は開会時間の午後1時30分までに各地から参加者が続々とスクリーン上に参集。定時には78人が出揃いました。板村区理事が開会点鐘と挨拶。ついで大久保次期理事による次期役員紹介、山下LT委員長によるLT委員紹介。研修はプログラムに沿ってそれぞれ責任者がワークブック（事前配布）の重要事項を中心に解説しました。（ワークブック参照・以下敬称略）

研修1では板村理事から東日本区の現況、またChange! 2022の達成目標1246人への取り組みについて紹介がありました。大久保次期理事は「私たちは次世代のために何ができるか」を主題に一般社団法人化を活かすこと、クラブに新生活様式を取り入れること、グローバル・クラブの設立を推進することを提起し、リーダーシップ論も展開。続いて光永主事からYMCAのブランディングの動きとして全人教育を可視化した「伴走サポート」をオールジ

ャパンで始めたことを紹介しました。

研修2では事業主任たちが各クラブに出来る具体策として例えば：地域・Yサービスはプロボノ形態での奉仕（深尾主任）、会員増強は「若返り実行計画」（大川主任）、国際・交流ではIBCとDBCをつなぐ複数クラブで途上国を支援する（山田主任）、ユースでは新たにユースクラブの設立を（三田主任）、メネットは今後の組織のあり方を検討し、海外メネットとの連携を模索する（澁谷委員長）を紹介。クラブの事業推進を後押ししたい気持ちが伝わってきました。

研修2の最後は次期アジア太平洋地域会長の大野勉氏から地域のワイズの現況報告のあと、ご自身の主題「100年を超えて変革しよう」とコロナ禍にふさわしいスローガン「健康第一！」を訴え、YMI 100周年に向けてチャレンジ22をアピールしました。大野氏は当日同時進行中の西日本区研修会とプレゼンの掛け持ち。お疲れ様でした。

研修3は実務研修。次期書記の衣笠メンから部役員・会計の職務について、区事務所長の小林メンから事務手続きについて説明がありました。JEF委員長の高田メンは今一度ワイズ基金への寄付を資料を使ってアピール。

研修4は部長を囲んで意見交換。通常は夜を徹した親睦会。今はコロナ禍中。短い時間を目一杯活用して議論したことが終了後の各部発表から察せられました。締めの監査講評（辻監事、漆畑監事）ではZoomという不慣れな形式ではあったが中身が充実していたとの好意的な評価にLT委も安堵。閉会挨拶（大久保次期理事）と点鐘（板村理事）で午後5時に終了しました。

研修内容もさることながら、Zoomが標準化したことを印象づけた今回の研修会。次期会長として臨んだ私にとっても今後のクラブ運営や交わりを考える機会となりました。



## ★「Week4Waste」環境美化週間へ参加のおさそい

地域奉仕・YMCAサービス事業主任  
小原史奈子（東京たんぽぽ）



国際会長のジェイコブ・クリステンセン（デンマーク）は、今年度の新しい取組みとして「世界 72 か国 27,000 人のワイズが 4 月 18 日から 24 日の週に一斉に環境美化に取り組み、地球をきれいにしよう」というプロジェクトを提案されています。一人につき 5～6 キロのゴミを拾えば、全世界で 15 万キロのゴミを拾うことができ、活動時にワイズのロゴが入ったウェアを着用すれば、クラブのアピールにもなります。街頭や公園、川や海岸でゴミを拾う日を設定し、地域の友人や、学校の生徒さんなどと一緒に活動することを勧められています。

現在コロナ禍の東日本区で、外出や人との交わりを極力減らしている地域の方、通常に近い活動が出来る方、地域差があると思います。出来る範囲の美化活動参加のお願いです。個人、またはグループで活動報告を各部の主査へお知らせ頂けませんか。活動写真、ごみ収集量など頂けましたら、東日本区の活動として報告したいと思います。感染防止対策をして、くれぐれもご無理のないように。



## ★奈良傳賞推薦のお願い

奈良傳賞選考委員会委員長  
板村哲也（東京武蔵野多摩）

永年にわたりワイズダムの発展に尽力し、顕著な働きをされた会員を、クラブより推薦頂きたく願います。推薦される場合はクラブ会長に送付された東日本区奈良傳賞候補者推薦書にご記入の上、4 月 30 日までにメールまたは郵送にて東日本区事務所・奈良傳賞選考委員会委員長（板村哲也）までお送りください。

## ★YMCA 報告

日本 YMCA 同盟担当主事 光永 尚生（三島）

3 月 21 日に解除された、首都圏の緊急事態宣言では、各地の YMCA の春休みプログラムにも少なからずの影響は出ています。心理的なバリアができているとも言えます。

また、3 月には、福島、宮城沖と 2 回の強い地震が発生しました。今後とも、発生する可能性があるという気象庁の発表に耳を傾け、しっかりと災害に備える日常を守っていきたくと考えています。この原稿が出されるときには発生していないことを祈るばかりです。

全国の YMCA では、東日本地区、中日本地区、西日本地区というエリアを定めて、「YMCA エリアセーフティ」という考え方を導入しています。また、「全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)」の加盟団体として、日常的な災害発生についても、多くの団体と、情報共有を進めています。全国のどこで災害が起こっても協働ができる仕組みです。

新型コロナ感染拡大も、大きな災害の一つかもしれませんが、地震、津波、台風、豪雨など、近年の災害の多発を考えると、枚挙にいとまがありません。

今まで以上に、YMCA をプラットフォームとした、災害支援ネットワークの活動は現実味を帯びてくる事実かもしれません。日常的には、私たちの YMCA、私たちのワイズメンズクラブは、事業を展開していても、いざという時には、アメンバーのように変化し、連携して強力な力を発揮できるような柔軟さと機動性も必要なのかもしれません。

2021 年度(4 月から 2022 年 3 月)は、これまでも増して、YMCA のスタッフである、ワイズメンズクラブ東西日本区担当主事の連携を強め、各区のワイズメンズクラブの皆様と、2022 年のワイズ 100 周年、2023 年の東西日本区 25 年と交流会なども契機としたつながりと関わりが持てれば幸いです。4 月から、定期の人事異動の時期ため一部担当主事が交代となりますが、引き続き、各区、各部、各クラブにおかれましては、パートナーシップの推進にご協力を賜れば幸いです。

## ★BF 一般補助金 (BF General Grant) 申請受け付け中

(申請期限：5月1日)

東日本区理事 板村哲也 (東京武蔵野多摩)

新型コロナウイルス感染症の流行が続いていることから、2021-2022年度の「BF文化代表」(旧「BFフルグラント」)の募集は休止となりましたが、これに代わり「BF一般補助金 (BF General Grant)」の募集が行われています。

この補助金は、通常のBF応募基準を満たしているクラブ(前年度にクラブメンバーひとり当たり5スイスフラン(約600円)以上のBF献金を行ったクラブ)が、2021/22年に実施予定の活動で、BF方針(Brotherhood Fund Policy)(国際協会ウェブサイト参照)に掲載されている以下のBFの目的のうち少なくとも1つに明確に合致する活動に対して、財政支援を行うものです。

- ・検討対象となり得る活動
  - ークラブ間、会員間の親睦強化
  - ーYMCA/ワイズのパートナーシップの構築または強化
  - ー文化交流と理解の促進
  - ーユースの活動やプログラムの支援
  - ー適切な指導者養成のための支援
- ・1地域当たりの申請上限額：2,000スイスフラン  
(申請および金額は、アジア太平洋地域の中で調整されます。)
- ・申請期限：2021年5月1日
- ・審査結果：2021年5月31日までに発表

補助金希望のクラブは、国際協会の下記のURLから申請をして下さい。

<https://form.jotformeu.com/ysmeninternational/bf-application-form>

なお、BF大会代表補助金(国際大会・地域大会)およびBFアンバサダー補助金(ワイズのない国や地域での新クラブの設立を支援する人材の派遣の補助)については、引き続き申請の受け付けが行われ、個別に審議されます。その他のBF補助金については、今後とも変更なく運営されます。

## ★第7回常任役員会報告

東日本区書記 小山久恵 (東京サンライズ)

2021年3月26日(金)19時からZoomで常任役員会が開かれました。常任役員5名、オブザーバー7名、計12名が出席し、会員異動、会計関係、行事、法人化、区事務所再開、中間監査、第24回東日本区大会、ワイズ100周年記念行事/東西日本区25周年行事、2021-2022年度ハンドブック&ロースター、区ホームページ更新、規程類、YMIワールド翻訳グループ、区事務所、アジア太平洋地域関係の報告がなされました。また、第3回役員会議案内容を精査しました。次回は4月27日(火)に行います。

## ★日本YMCA同盟担当主事について

2022年6月末まで引き続き、光永 尚生さん(三島クラブ在籍)が担当していただきます。

※4月以降通常は、熊本市に在住しておられますが、昨今のZoomなどによるオンライン会議などを通して、連絡いただけるそうです。

## ★入会者(2021年3月1日～31日)(カッコ内は推薦者)

甲府21 赤沢 奈美 (萩原三鈴)  
もりおか シンティア工藤ラザロ (濱塚有史)

## ★募金・献金 ありがとうございます。

- ・3.11 献金  
800,000円  
(1部と11クラブ259,000円、個人30名541,000円)  
【部、クラブ、お名前のみ紹介します(献金順、敬称略)】  
関東東部、東京サンライズ、東京たんぼぼ、東京むかで、東京八王子、東京北、甲府、沼津、東京世田谷、十勝、川越、横浜つづき  
板村哲也、小林隆、佐藤茂美、田中博之、小原史奈子、駒田勝彦、輿水順雄、大澤和子、辻剛・孝子、栗本治郎、佐藤重良、神谷幸雄、井上公男(大阪西)、大久保知宏、山田敏明、小山久恵、利根川恵子、漆畑義彦、南澤一右、柿沼敬喜、加藤義孝、御園生好子、古田和彦、伊藤一芳、山下真、高田一彦、仙洞田安宏、渡辺大輔、吉田公代
- ・JEF 献金  
今回は無しです

## ★4～6月の予定

4月2日(金) 19:00～	Zoom	第10回 Change! 2022 推進委員会
5日(月) 19:00～	Zoom	第5回東日本区会計規則およびシステム検討小委員会
7日(水) 19:00～	Zoom	第5回拡大 EMC 事業委員会
8日(木) 13:00～	四谷	3月中間決算 監査
10日(土) 18:00～	Zoom	第3回役員会(現・次期役員)
16日(金) 19:00～	Zoom	LT委員会
27日(火) 19:00～	Zoom	第8回常任役員会
5月23日(日) 17:00～20:30	京都ホテルオークラ	京都パレスクラブ 50周年記念例会
25日(火) 19:00～20:30	Zoom	第7回文献・組織検討委員会
6月4日(金) 19:00～21:00	ウェスティン都ホテル京都	西日本区大会前夜祭
5～6日 14:00～22:00	ウェスティン都ホテル京都	西日本区大会(ハイブリッド)
11日(金) 18:00～20:00	Zoom	第4回役員会
12日(土) 10:00～12:00	Zoom	年次代議員会、フレッシュワイズの集い
12日(土) 13:00～	Zoom	東日本区大会

## ★第24回東日本区大会のご案内

東日本区理事 板村哲也(東京武蔵野多摩)

既にお伝えしていますが、新型コロナウイルス感染症終息が見えないことより、第24回東日本区大会は対面形式に代えリモート形式で実施することを2月25日の常任役員会でご承認頂きました。

この方針転換に伴い、改めて開催要領をホストクラブと検討を続けており、現時点で概略下記の通りとなっています。詳細が決定次第皆さまにご案内申し上げます。

記

1. 日時：6月12日(土) 13:00～16:30
2. 場所：山梨県甲府湯村温泉郷 常盤ホテル
3. ホストクラブ：甲府21クラブ
4. 開催方法：ハイブリッド、日英同時通訳付
5. 主なプログラム：オープニング、開会式、東日本区アワー①(各種報告、表彰)、東日本区アワー②(理事就任式/引継式)、閉会式
6. 参加/出席形態
  - (1) 一般会員、来賓、部長・事業主任他報告者  
リモート
  - (2) 理事就任式/引継式関係者  
対面+リモート
  - (3) オープニング/開会式/閉会式  
対面+リモート+ビデオ録画
7. 参加登録費：なし
8. 開催費用：業者の起用(大会当日の全体の映像の企画・運営・放映・録画など)、会場費その他費用を東日本区会計より支出。
9. その他：詳細が決定次第ご案内。

ワイズメンズクラブ国際協会  
第24回東日本区大会



11th～13th Jun 2021

”ようこそ東日本区大会へ”

Change for the future!(未来へつなげる変化を)